

# 予算特別委員会会議録

令和 2 年 6 月 18 日

宮 古 市 議 会

## 令和2年6月宮古市議会 予算特別委員会会議録目次

(6月18日)

議事日程	1
出席委員	2
欠席委員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
付託事件審査(1)	3
閉 会	9

宮古市議会予算特別委員会会議録

日 時 令和2年6月18日（木曜日） 午前11時5分  
場 所 議事堂 議場

---

○

---

事 件

[付託事件審査]

(1) 議案第18号 令和2年度宮古市一般会計補正予算（第5号）

出席委員（21名）

工藤小百合	委員長	竹花邦彦	副委員長
白石雅一	委員	木村誠	委員
西村昭二	委員	畠山茂	委員
小島直也	委員	鳥居晋	委員
熊坂伸子	委員	佐々木清明	委員
橋本久夫	委員	伊藤清	委員
佐々木重勝	委員	高橋秀正	委員
坂本悦夫	委員	長門孝則	委員
落合久三	委員	松本尚美	委員
加藤俊郎	委員	藤原光昭	委員
田中尚	委員		

欠席委員（0名）

---

説明のための出席者

付託事件審査（1）

総務部長 中嶋 巧 君	産業振興部長 伊藤重行君
財政課長 箱石 剛 君	観光課長 前田正浩君
財政係長 山本恭彦君	もてなし観光係長 松浦宏隆君

---

議会事務局出席者

事務局長 下島野 悟	次 長 松橋 かつおる
主 任 佐々木 健 太	

## 開 会

午前11時5分 開会

○委員長（工藤小百合君） ただいままでの出席は21名であります。定足数に達しておりますので、これから予算特別委員会を開会します。審査に入る前に申し上げます。本日の案件は、付託事件審査1件となります。発言及び答弁は、一問一答方式でお願いします。発言の時間につきましては、質疑、答弁を含め、1人20分以内としますので、質疑、答弁とも簡潔明瞭をお願いします。当局においては、場合によっては反問権も認めますので、よろしくお願いします。それでは、審査を行います。議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第5号を審査します。審査は、歳入歳出一括で行います。発言される方は、議案書のページ款項目等特定して発言してください。それでは、発言される方は挙手願います。

○委員長（工藤小百合君） それでは田中委員。その次は松本委員です。田中委員。

○委員（田中尚君） はい、緊急の予算対応といえますか、以前にも議論いたしまして、7款商工費、1項商工費、1目観光費について質問させていただきます。端的に伺いますが、市内の宿泊施設の利用促進事業ということですが、宮古市内の観光施設の過去3カ年の利用状況はどのように捉えているのでしょうか。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 資料を持ち合わせておりませんので、少し時間をいただきたいと思います。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） それでは、時間がもったいないので、今資料そろえる間にですね、違う質問をさせていただきます。今回は、コロナに伴いまして、いわば市民の皆さん方に市内の宿泊施設を大いに利用してもらおうということがこの事業の主たる内容だと理解をしております。従来はインバウンドということで、できるだけ外国人観光客もね、岩手県そして市内におけるということが課題だったと理解をしておるわけですけれども、現状ではなかなかそれは難しいのかなというふうな状況と理解しておりますが、星野リゾートの代表の星野さんは非常に興味深い数字を示しております。それはどういうことかといいますと、外国人の方で海外に出かけるこの日本人が海外で落とすお金。それから外国人が日本に来て落とすお金、大体同じだっていうんですね。ですから現状では大いに国内での宿泊施設を利用するような、そういう状況をつくるということは非常に私は今の経済状況のもとでは大変大事で効果的な事業になると思っておりますけれども、問題は後からGo Toキャンペーンで出てくるであろう類似のですね、事業に対する対応になるわけですが、この点については畠山委員も取り上げた経過がございますけれども、私の理解はいわばこれが1番煎じだとすると、いろいろこう議論がありましたGo Toキャンペーンの方の国内の宿泊施設の利用促進事業、これはいわば2番手の事業になるのかなというふうに理解をしております、重複した事業ではないと。内容的には目的は同じでありますけどもね。これやっぱり2回使えるというふうに私は理解してるんですが、その理解でいいのかなどうか確認も含めて伺います。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい、まずもってこの事業の目的と申しましょうか、コロナで影響を受けた観光宿泊の部分に支援をしたいと、いわゆる観光客が減少、結局移動の自粛がかかってもう動きがとれないと。それぞれのキャンセルで宿泊業界が非常に厳しい状況にあると。その部分への支援ということになります。今議員おっしゃったGo Toキャンペーンは恐らく7月以降の施行となる見込みということで、我々は先んじて、6月5日からこの事業は7月31日までというふうに考えてございます。

- 委員長（工藤小百合君） 次は松本委員、その次は落合委員です。松本委員。
- 委員（松本尚美君） はい、ちょっと何点か確認も含めてさせていただきたいと思います。先ほど田中委員からはですね、3年間の利用状況ということで、資料がないということですが、今の宮古市のキャパですね、定員、宿泊施設全体で何名と捉えておりますか。
- 委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。
- 観光課長（前田正浩君） 2,403名ということでございます。
- 委員長（工藤小百合君） 松本委員。
- 委員（松本尚美君） はい、わかりました。それで現状の予算を増額補正するということですが、8,800という数字がちょっと見えてますけども、現状で予約状況がですね、7月31日までの間、現状ですよ、きのう時点でも結構ですが、何人予約が入ってるんですか。
- 委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。
- 観光課長（前田正浩君） 6月16日時点でございます。5,249の予約がございます。
- 委員長（工藤小百合君） 松本委員。
- 委員（松本尚美君） ほぼ7月31日までということですよ。わかりました。今現在で5,249人の内訳っていうのは市民は何人ぐらいと掴んでますか。
- 委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。
- 観光課長（前田正浩君） 全てを確認してるわけでもございませんけれども、グリーンピア、国民休暇村については、1割弱が市民、その他は県民になります。浄土ヶ浜パークホテルについては、3割が市民、その他は県民ということになります。
- 委員長（工藤小百合君） 松本委員。
- 委員（松本尚美君） はい、わかりました。もう1点はですね、7月31日までという期間なんですけれども、国のほうでも、先ほども若干触れましたけれども、Go Toキャンペーンですね、これにつなげていくということなんだろうと思うんですが、想定とすれば、今国ですね、この8月1日からですね、つながっていくかって、いつから受付が始まるかとかそういった部分があると思うんですが、これが国がずれていった場合ですね、これは何らかの対策、対応を考えておりますか。
- 委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。
- 産業振興部長（伊藤重行君） はい、現状では7月31日までということで考えてございます。
- 委員長（工藤小百合君） 松本委員。
- 委員（松本尚美君） ですから、前提として、国が遅れるといった場合にはどういう対応するか検討されてますかっていう、検討してないっていうのであれば検討してないと。
- 委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。
- 産業振興部長（伊藤重行君） はい、現時点では検討しておりません。
- 委員長（工藤小百合君） 松本委員。
- 委員（松本尚美君） 想定という範囲でね、今決めることはできないと思うんですけれども、やはり国も8月1日っていうのはね、当然照準合わせていると思うんですけれども、委託費等々の問題、それに受託するっていうか応札する事業者が万が一ないと、この実施が遅れてくっていう可能性が十分ありますから、7月31日以降のこれはやはり夏休みとかお盆帰省そういった部分も当然あるだろうというふうに思いますし、見込めるの

もあるのかなというふうに思いますから、間が空かないように継続できるような対応という部分も私はやっぱり必要なんではないのかなというふうに思っております。あと最後1点確認したいんですけども、5,249人の今現在予約があるということですが、平均的に収容人数って言いますか、定員に対する大きく割合と申しますかね、偏っているのかいないのか、ある特定の宿泊施設に偏っているのかいないのか、平均的にですね、標準的にと言いますかね、全体的に宿泊予約が入っているのかどうか、そこをちょっと分析はどのようになっていますか。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 現状では集中をしている傾向にございます。市では当初から制約を設けておりませんでしたので、今後その辺の調整をしていく必要があるかと思っております。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい、そこもやはり支援策とすれば大事な部分かなというふうに思いますから、ぜひ現状把握してどう対応するかという部分も期待をしたいと思っております。それともう1点、最後っていいましたけれども、このリピーターをどう確保していくか。これも大きなテーマだと思うんですね。宿泊割の部分では1,000円の商品券とかそういったものを、何て言いますか、宿泊した方々にお土産を買っていただく、プラスにしていきたいということだろうと思うんですね、波及効果ですね。やはりそうは言いながらも宿泊施設それぞれやっぱりリピーターをどうつくっていくか、獲得していくかということ。そういった努力もやっぱり必要だと思うんですね。自前の企画ですね。おんぶにだっこではなくて、やはり自分たちのリピーターの確保をどうしていくかということを一方で合わせ技でやっていかないと、じゃあ期間過ぎたらまた落ち込んでいくことは当然考えられますから、期待をしたいんですがそこはどのようにやりとりをされてるんですか。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい、この事業の目的であります宿泊者の増進を喚起するという点については一定の役割を果たしているというふうに考えます。ただ先ほどお話ししましたけれども、宿泊施設に集中している部分もあります。他の宿泊施設も付加価値をつけてのPRだとか、企業努力も当然必要になってくるというふうに考えてございます。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい、課長が考えているだけではなくて、やはり業界の皆さんとそこを積極的にアピールっていうんですか、対応していただくように要請をすべきだというふうに思います。それからもう1点、各宿泊施設の食材の調達なんですけれども、やはり地域内経済循環という部分を考えてみると、ないものはしょうがないですよ。地元で調達できないものはやむを得ないんですけれども、可能な限りやっぱり地元の食材等々を積極的に活用していただくということも私は必要なんではないのかというふうに思ってますね。ですから、そこはどのように対応されているのか確認をします。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 地元の商品を積極的に活用するという事は本当に大事なことだと思いますので、今後それについても各宿泊施設に徹底をしていきたいという話をしていきたいと考えております。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。次、落合委員です。その次は畠山委員です。落合委員。

○委員（落合久三君） 説明資料の中には、宿泊施設への予約状況を把握した結果、8,800人というふうに理解したんですが、するんですが、今の答弁では、今のところ5,249人だって聞いたんで、これ随分差があるなと思っ

たんですが、この説明書きにある予約状況8,800人っていうのは、少しぐらい差があるのはいいんですが、3,000人も差があるっていうのはちょっとにわかには信じられないんで、8,800人の予約の数字は、直接聞いて大体はじいた数字だと思うんですが、そこをまず。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。予約が既に8,800人あったわけではございません。6月5日のスタート時に一部予約が殺到いたしましたして、その後ですね、各宿泊施設に要望調査を行いました。その結果が6,800人増のトータルで8,800人ということで、これをもとに積算をしております。

○委員長（工藤小百合君） 落合委員。

○委員（落合久三君） 時間があれなんで前提を抜きにどんどん喋ってんですが、こういう提案は大賛成であります。もう大いに頑張ってやるべきだと思うんですが、ということはこの説明書きにある8,800人っていうのは予約状況ではなくて、より厳密に言えば期待値……。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 確かにこの事業説明資料で予約状況が8,800と。これはですね、先ほど松本議員の答弁したとおり、6月の16日現在の予約状況が5,249。この8,800というのは先ほど前田課長が言ったとおり、6月12日に各施設にもう1回今後7月31日までの見込み調査をした結果、8,800人ぐらいになるだろうという数字でございます。その部分については我々市が半額補助の支援をしようということで今回提案しているというふうにご理解願います。

○委員長（工藤小百合君） 落合委員。

○委員（落合久三君） それから先ほど前回のとき私聞かなかったんですが、そもそもこれは県と市が一緒になってやる事業なんですが、期限は最初から7月31日まででしたっけか。というのは、まさにお盆を含めて観光シーズンがたけなわになる途中で打ち切ってしまうっていうのはもうちょっと例えば10月末までにするとか、そういうふうにならないもんなんですか。これは変更はできない。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。初めから当初の2カ月間で想定をしていました。我々もこの事業に限らず、このコロナ対策の考え方といたしまして、国県の支援が始まる前の、本当にこの大事な部分をまだ始まってないというふうないろんな部分がございますよね。その部分にまず市として、緊急的に支援をしていこうという部分でございますので、我々は宿泊割の事業がそのまま継続してGo Toキャンペーンにいつてほしいと、先ほど松本議員、切れ目のないようにと言いました。やはりそこら辺の部分でそのときの状況見きわめてその部分は判断していきたいというふうに考えます。

○委員長（工藤小百合君） 落合委員。

○委員（落合久三君） わかりました。切れ目なく、今回はこういう国の支援制度が8月からですから、それを待っていたんでは宿泊業がどんどん落ち込んでしまうと。それを待つのではなくて、県市、あわせて初動と言えるかどうか、いずれ早く立ち直り継続を進めるための措置であると。8月以降については、この間の取り組みを踏まえて、改めてどうするかを含めて検討をする余地を残しているんだというふうに理解をします。じゃあ最後に、結構予約も予想以上、私が思っていた以上に現時点であるというふうに思ったんですが、ただ答弁の中で、満遍なく宿泊予約が来ているっていうよりも、やっぱり偏りがあると。宿泊先がね。というのはある意味しょうがないのかなとは思いますが、一気にこれまでここ2月、3月から今日までと違って、急激に宿



泊客がつかんでいる数でいってもすごいわけですよね。これを割り算すると1日当たり施設に平等にじゃなく、かなり偏っているとすれば、これらの業界の皆さんは当然コロナ対策、当然閑散としていたのが、結構な密度になってくることが予想されるので、私の住んでる町内のホテルでも今そのことで非常に準備をしてるんですが、ここのところのコロナ対策は、いわば考えられる安全対策はとられているということでよろしいですか。当たり前なんですけども。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。各宿泊施設ともアルコール消毒液を配置したり、フロントにアクリル版を設置をしたりいろんな工夫をさせていただきますし、また従業員については全員マスクを着用という部分でいろいろ対応してます。また休暇村については6割までの予約をさせていただきます。浄土ヶ浜パークについては7割程度と。グリーンピアについても5割から6割程度ということで密にならないように予約を受けているという状況でございます。

○委員長（工藤小百合君） 落合委員。

○委員（落合久三君） わかりました。最後に、先ほど観光課長が松本議員の質問に対して、宿泊施設の選択が満遍なくではなくて結構偏りがあるのかなというふうな答弁が、調整もそういう意味では図ってできるだけ多くの宿泊施設に人が行くようにという意味合いに受け取ったんですが、当たりのことなんですけども、お客さんがどの宿泊施設を選ぶかは、行政が決めるのではなくて、当然宿泊する人がいろんなことを勘案をして、ここに泊まりたいっていうんで選ぶんだと思うので、それ以上にそれを満遍なくっていうのを行政がこうやるっていうのはちょっと違う問題があるなっていうふうに思ったんでその点だけちょっと気がかりだったんで、その答弁を求めて終わります。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。確かに落合議員のおっしゃるとおり、お客さんは選ぶわけですからね。ただ、前田課長が言ったのはですね、この予算の範囲内で、希望、大体見込み数をそれぞれの施設で出しております。見込み数に足りない施設が出た場合には、何ていうんだろう。意外にお客さんの予約が入ってないから、こっちの分そっちにどうかっていうような調整は出てくると。我々が期待するのはですね、やはり一部の大きいホテルに限らないで、独自のメニューを構築したり、魅力アップしてお客さんを獲得するように、業界を通じて指導してまいりたいというふうに思ってます。

○委員長（工藤小百合君） 中嶋総務部長。

○総務部長（中嶋巧君） 先ほどの落合議員さんのほうから説明資料の部分でご指摘ありまして、大変申し訳ございません。先ほどの宿泊施設への予約状況というのは予約状況等とみていただければ。よろしく申し上げます。申しわけございませんでした。

○委員長（工藤小百合君） 次は畠山委員です。

○委員（畠山茂君） 2点ばかり思ってたんですけど、1点は大体重なつたんですが、私が聞いたかったのが、説明資料で今回の3,400万円を補正で組んだんですけども、根拠が当初予算は2,000人の予定だったけれども、予約が6月16日で5,249人も来ているということで、今回何人を見込むのかなと思ったらここにさっきの説明で8,800人分の見込みで予算を組んだということで、今回県のほうも1,000円を2,000円に補助も増やした形でこういう風になったのかということですよ。ちょっと確認ですけど、8,800人の予算で組んだということですか。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。そのとおりでございます。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。

○委員（畠山茂君） 1つはそこを聞きたくて、あともう1つ聞きたかったのは、今回補正を組んで8,800人分で組みました。他の自治体もこういうことをやっている自治体もあるんですけども、他の自治体では先着何名つてのを限定してやってる自治体も確かあったと思います。今回7月末で仮にやっていって人気が出て、この予算オーバーした場合は出来高払いであとで補正で工面するのか、それとも変な話もう予算がなくなったので、途中で打ち切りというのものもあるのか、そういったところをちょっと危惧したので先着じゃなくてあくまで7月末だといったときにオーバーした場合、どういう対応をとるのかを最後に聞きたいと思います。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい、あくまでもこの8,800人分の予算で終了というふうに考えております。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。

○委員（畠山茂君） そうすると予約したときにもう8,800人で予算がなくなったときにはすいませんがお断りと言う、もういっぱいなんぞということで終わりということですね。はい、わかりました。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） 先ほどのですね、畠山議員の質問に対して部長はそのとおりですという答弁したので、私はちょっとびっくりしているんですが、なぜびっくりしたかといいますと、これは岩手県が対象にするのは、その居住する市民の市内の宿泊施設に対する助成金が2,000円というふうに理解をしておりました。それが今回は、岩手県の事業として、例えば宮古市民が盛岡に泊まろうがどこに泊まろうが2,000円助成しますよと。そういうふうに変ったというふうな意味の答弁に何うんですが、そういうことでいいですか。当初とは違ったというのが私の理解です。したがって宮古市は、宮古市民だけでなく、県内の皆さんにどうぞ泊まってくださいという、ここは宮古市のカラーだったんですよ。我々も盛岡に泊まったってそれは対象になりませんからね。そこは最初はそうだったけれども、変わったんだというふうな意味の答弁を畠山議員にしたというふうに理解するんですが、間違いございませんね。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） そのとおりでございます。変わっています。

○委員長（工藤小百合君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。先ほど田中議員の3年間の観光客の入込み数について回答いたします。29年度29万飛んで298人。30年度28万2,093人。令和元年度25万2,550人。以上です。

○委員長（工藤小百合君） 以上で議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第5号の審査を終了します。説明員は退席願います。これより議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第5号に対する討論を行います。討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 討論なしと認めます。これより議案第18号を採決します。この採決は、簡易表決で行います。お諮りします。本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 異議なしと認めます。よって、議案第18号は原案可決すべきものと決定しました。以上で本委員会に付託されました案件は全て審査を終了しました。皆さんにお諮りします。ただいま本委員会

に付託されました全ての議案について、全会一致で可決すべきものと決定されました。よって委員長からの提案ですが、本日の本会議における委員長報告に対する採決については、討論を省略し、全て一括で採決するよう議長に申し入れたいと思いますが、ご異議ございませんか。異議なしと認めます。よって、本委員会の委員長報告に対する採決については、討論を省略し、一括で採決するよう、私から議長に申し入れたいと思います。これをもちまして、予算特別委員会を散会します。大変ご苦労さまでした。

午前11時36分 閉会

○

予算特別委員会委員長 工藤 小百合